

2014年1月15日

2014年 イビデン株式会社 賀詞交換会

2014年1月15日(水) 午前11時より、イビデン株式会社(本社:岐阜県大垣市、代表取締役社長:竹中裕紀)は、お取引先様 約450名に出席いただき、2014年の賀詞交換会を大垣フォーラムホテル(大垣市万石)において開催いたしました。

◆竹中社長挨拶(要約)

昨年の世界経済は、米国においては回復傾向にあったものの、欧州は低迷から抜け切れず、新興国も成長率が鈍化いたしました。総じて厳しい一年であったと思います。一方、国内経済は、アベノミクス効果や円安により緩やかな回復基調をたどりました。また、2020年の東京オリンピックならびにパラリンピックの招致が決定したことや富士山が世界遺産に登録されるなど元気が出る年になりました。

昨年、当社は101年目にあたり、新たな気持で何としましても業績を立て直したいと、お客様のニーズを捉え、「自掛り」で実現するべく取り組んでまいりました。技術者が自ら現場に入り、創意工夫して問題解決する「自掛り」は、当社のDNAといえるもので、これを全社方針に掲げて進めました。

電子事業においては、昨年7月頃からスマートフォン向けの需要が戻ってきたことからプリント配線板(PWB)が稼働事業に転換いたしました。また、パソコン向けパッケージ(PKG)とスマートフォン・タブレット向け小型・薄型パッケージ(CSP)を統合し、事業全体として開発効率、生産効率があがり、反転に向かう形ができてまいりました。

2014年も当社を取り巻く環境の厳しさは変わりませんが、「現地現物」、「自掛り」を基本に当社グループの基礎体力を強化する活動を継続してまいります。また、市場の変化にも対応していきます。例えば、CSPではPKGと同じ製法の製品が出てまいります。当社では両製品の設備の共有化を進めていきます。PWBでは世界的な4G(高速通信サービス規格)の普及に伴い、微細配線化に有利な基板であるFVSSの需要増加が見込まれています。イビデンエレクトロニクスマレーシア第2棟の投資を再開し、生産能力の拡充を進めてまいります。セラミック事業においては、環境規制の強化を睨み、イビデンハンガリーの第3棟において大型車向けDPFの生産ラインを立上げました。さらに、北米市場向けには、イビデンメキシコを設立し、15年度の稼働を目指して進めてまいります。

電子事業における競争力の維持は大変厳しいものがあります。お取引先様におかれましては、新技術の情報や新サービスの提案、設備メンテナンスの指導等 引き続きご支援を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

以上